

SDGsを絵本で“伝える”

Ami ひかる

「誰一人取り残さない」

という考え方

SDGs根源目標：「誰一人取り残さない」



“国連は、
人を天国に誘うためではなく、
人を地獄から救うために創設された”

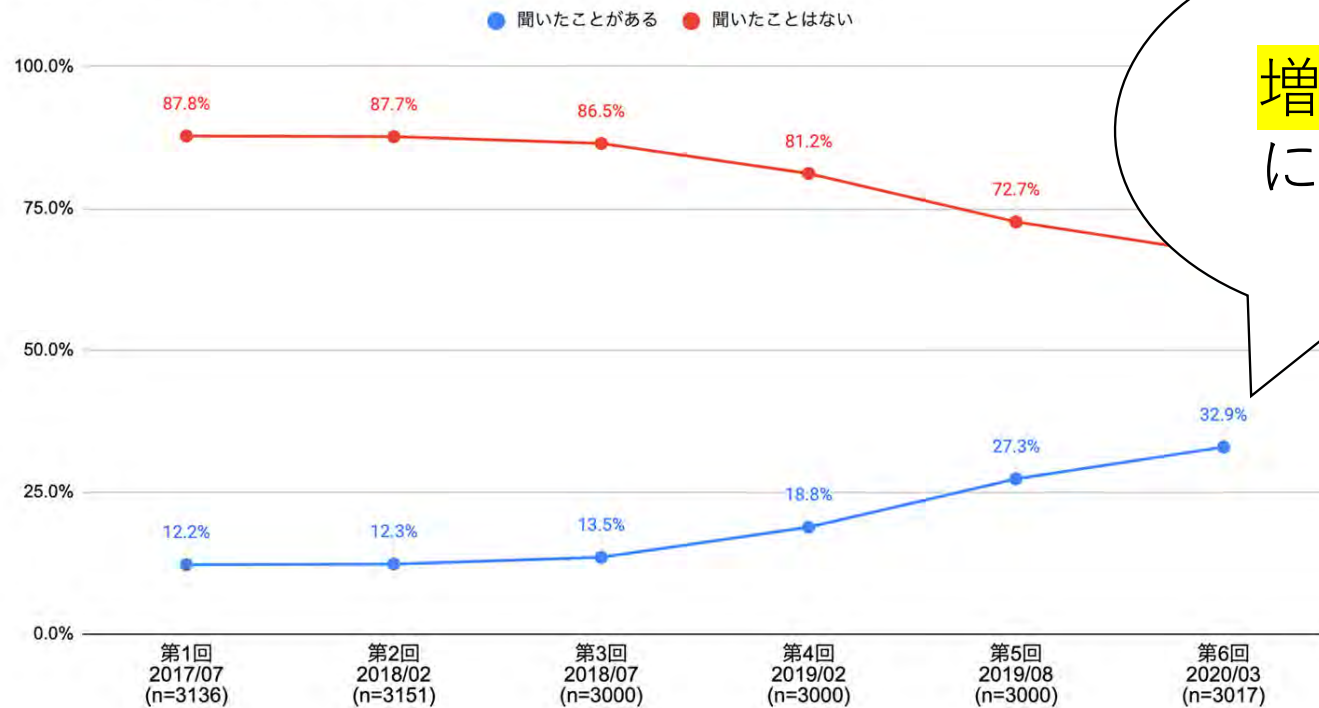
ダグ・ハマーショルド

第2代国連事務総長

UN Press Release SG/382 (1954)

SDGsの認知度の推移

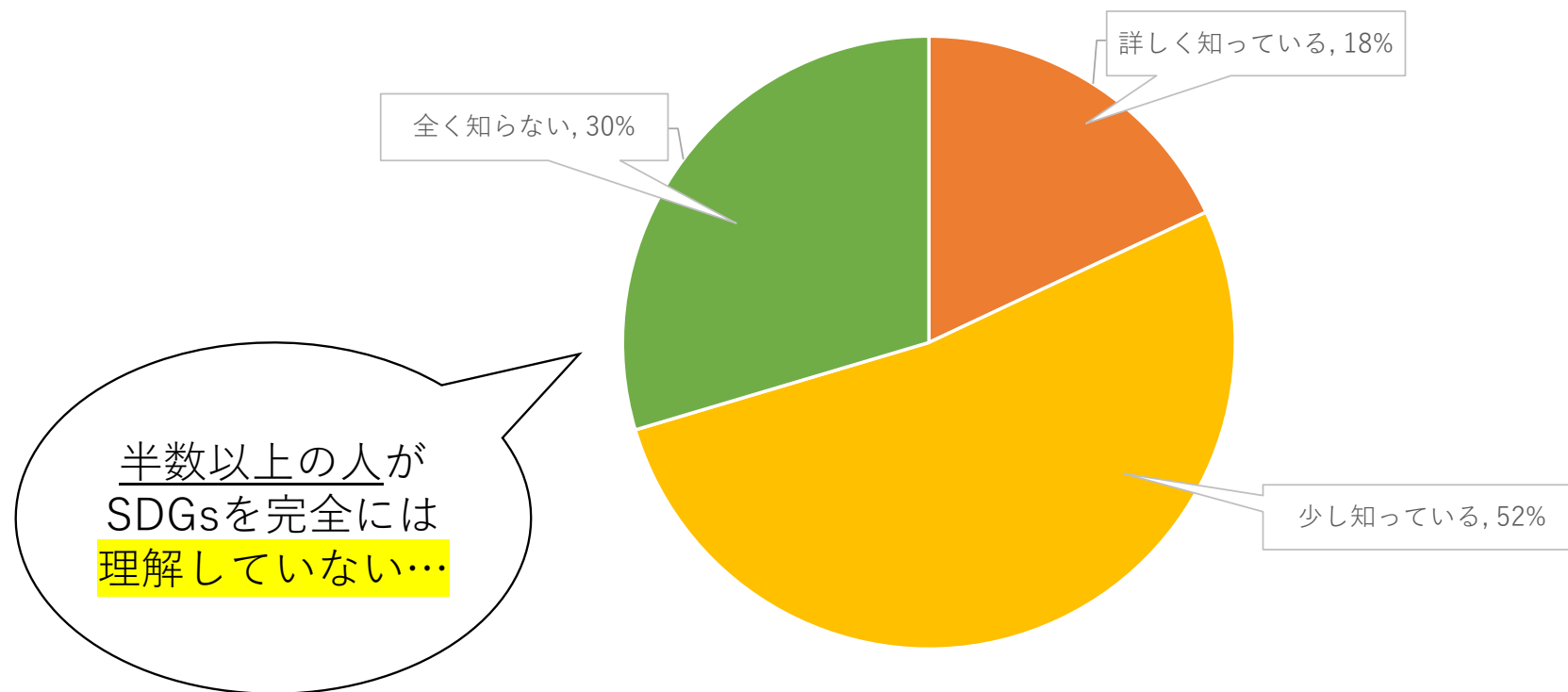
あなたはSDGsという言葉を知っていますか (認知度推移)



増加傾向
にある！

引用元：朝日新聞社「SDGs認知度調査」

SDGsの**内容**に対する認知度



引用元：朝日新聞「SDGs認知度調査」

「言葉を知ってもらおう」から
「内容を知ってもらおう」へ

SDGsが国連サミットにて2015年の9月に採択されてから約5年3ヶ月。

私たちは次のステップへ進みたい。

でも、何から始める…？SDGsで最も重要なことって一体なんだろう？





“取り残されている人を地獄から救う”ことが全ての目標の根源になっている



最も重要なことは「誰一人取り残さない」という考え方を知ってもらうこと

なぜ絵本にしたのか

- 絵本は親子間の良いコミュニケーションツールだから
⇒ 子供だけでなく大人も同時に学ぶことができる
- 想像力豊かな子供たちにこそ知ってほしいから
⇒ 未来のSDGs世代の想像力を養う
- 本が苦手な方でも読みやすいから
- デジタル絵本やオンラインでの読み聞かせなど、デジタルに対応できるツールだから
- 児童館や小学校での読み聞かせや寄贈など、学生の強みを生かした活動ができるから

絵本タイトル

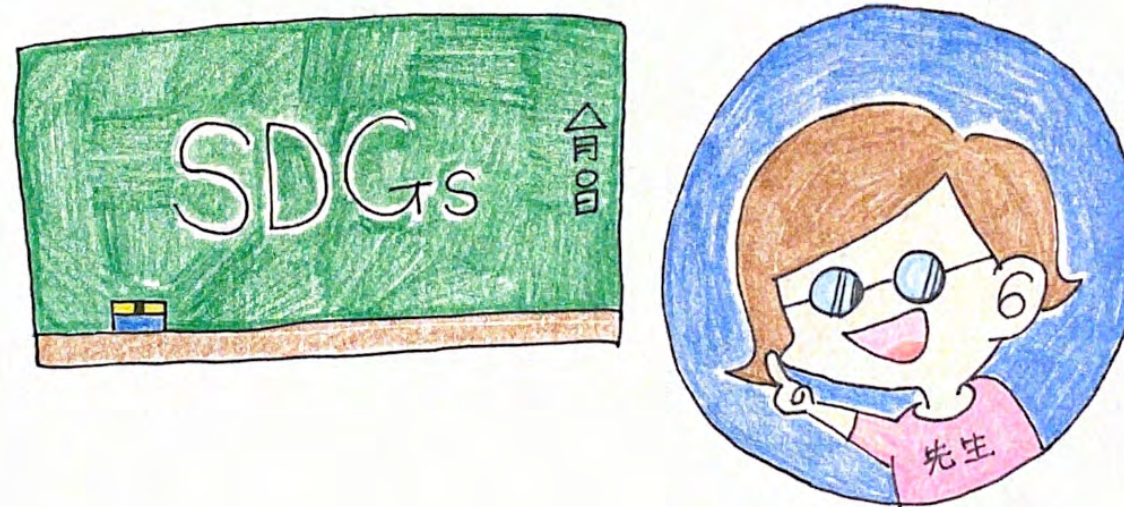
「誰ひとり取り残さない」

実際に私たちが作成した絵本をご紹介します！

彼はニック。車椅子に乗っているおばあちゃんと二人暮らしをしている男の子です。



ある日、ニックは学校でSDGsについての授業を受けました。
先生はSDGsとはなんなのか教えてくれました。



「SDGsとは、世界中の人たちが協力してより良い世界を作る為に
取り組んでいる目標のことよ。あなたたちも、その目標に取り組むうちの1人なの。」



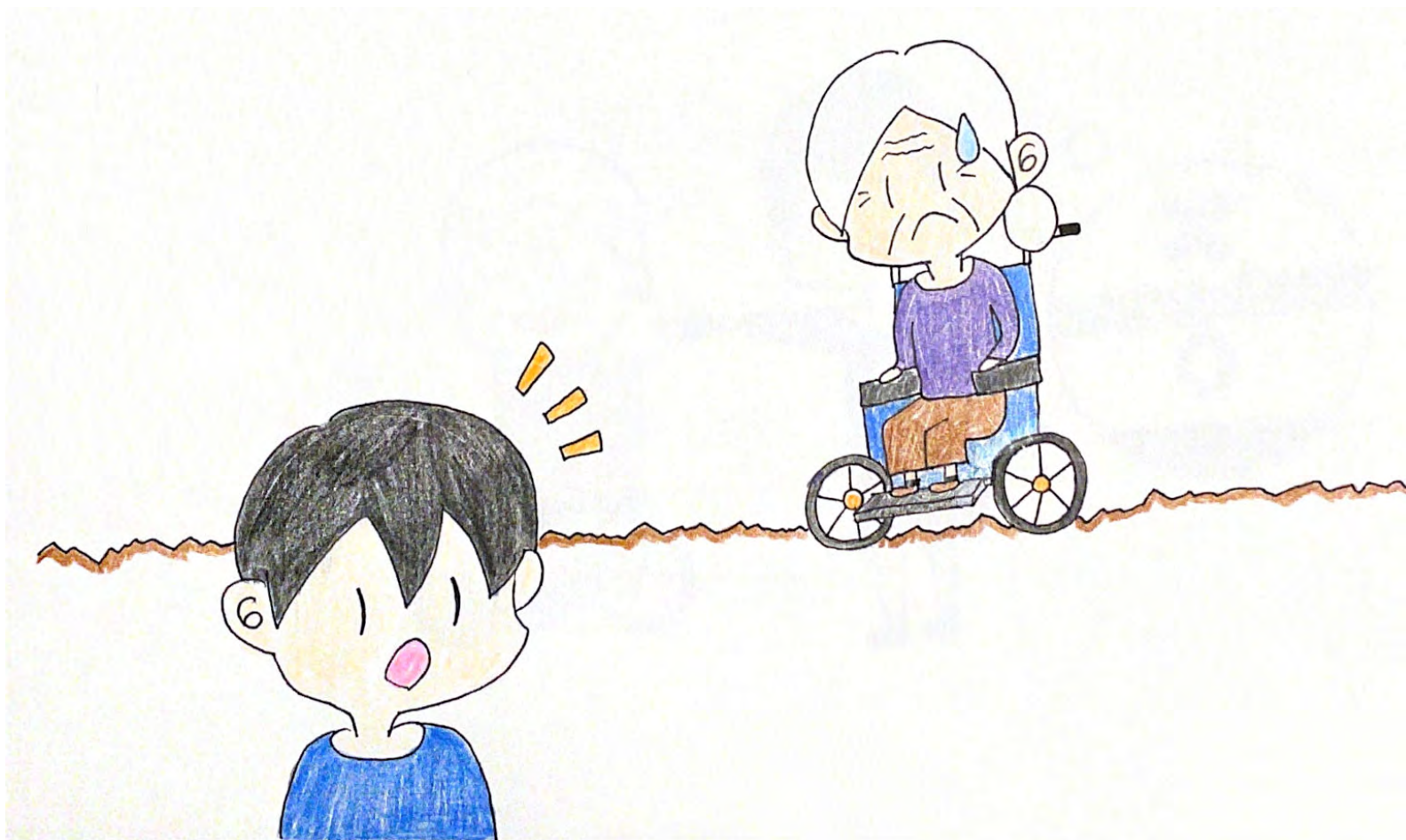
先生は授業の最後に、「誰ひとり取り残さない」というSDGsを支えるひとつの考え方について宿題を出しました。「この言葉は全てのSDGs目標のもとになっている大切な言葉よ。皆には取り残されている人はどんなひとなのか、そしてどうしたらそういう人を救うことが出来るのか、よく考えてみてほしいの。」

『取り残されている人…一体誰なんだろう？』

学校の帰り道、ニックは、おばあちゃんを見かけました。

石がたくさんあり、でこぼこした道です。どうやら通るのに苦労しているようです。

そこでは前にも、ベビーカーを押して通ろうとしている女性が困っているのをニックは見かけたことがありました。



『僕にまかせて！』

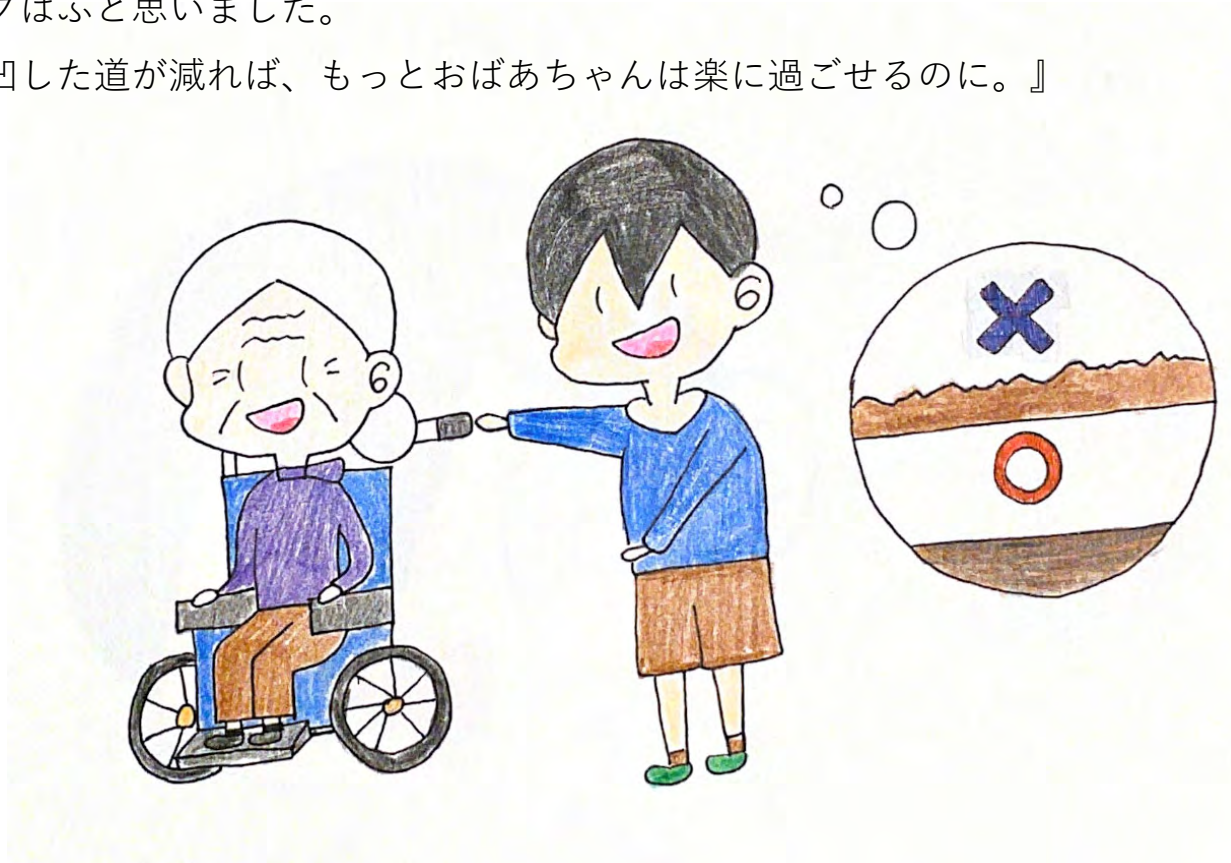
ニックはおばあちゃんに駆け寄り、車椅子を押してあげます。

「あらニック。ありがとう。いい子だねえ」

嬉しそうなおばあちゃんを見て、ニックもなんだか嬉しい気持ちになりました。

ニックはふと思いました。

『凸凹した道が減れば、もっとおばあちゃんは楽に過ごせるのに。』





次の日、学校で先生から話しかけられました。

「昨日、帰り道にあなたの姿を見かけたの。

あなたはおばあちゃんをとても大切にしているのね。」

『先生。僕、僕のおばあちゃんも取り残されている人の1人だと思うんだ。』

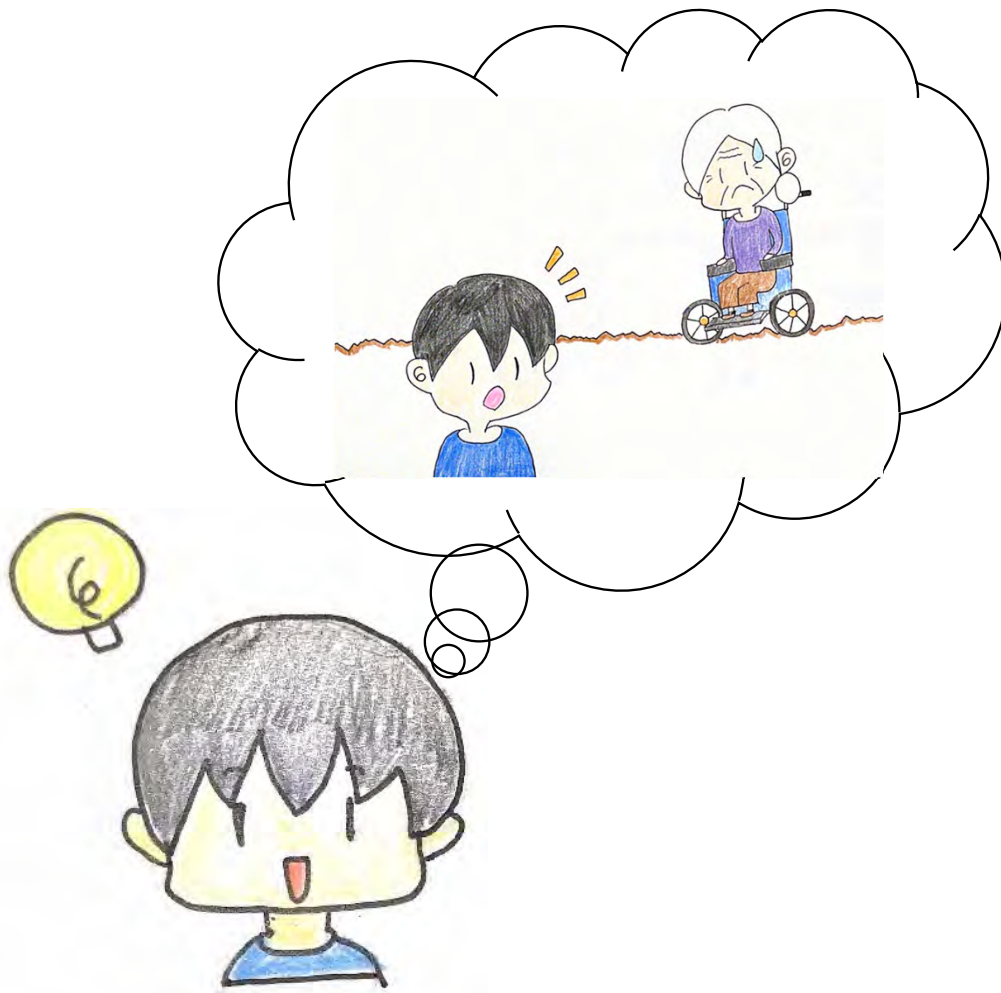
「なぜそう思ったの？」

『だって、僕のおばあちゃん車いすのせいで不自由な思いをしているんだ。

助けてあげたいけど、おばあちゃんはもう車いすを使わずに歩くことは出来ないんだ…』

「おばあちゃんが歩けるようにならなければ、
おばあちゃんは今からずっと不自由な思いをし続けると思う？」
『え、違うの？』
「ニック不自由を生み出しているのは人間では無い。
これだけ伝えておくわね」
先生はそう言い残して立ち去ってしまいました。
"不自由を生み出しているのは人間ではない…。"





“不自由を生み出しているのは人間ではない...”

帰り道ニックはこの言葉の意味をずっと考えていました。
気づくとおばあちゃんやベビーカーを押す妊婦さんが
通るのに苦労していたあの凸凹道に到着していました。

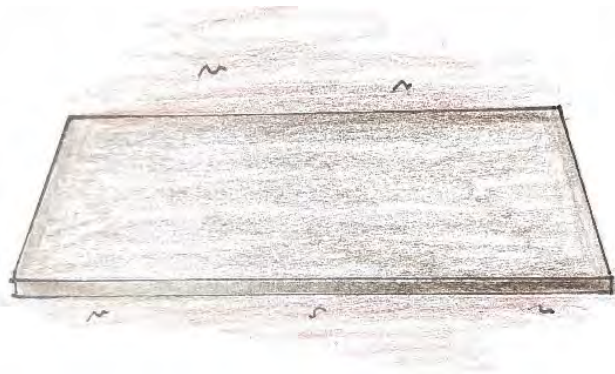
不自由を生み出しているのは人間じゃなくて...
「あっそうか！」

ある日の放課後、ニックはおばあちゃんに言いました。「少し散歩しない？」

そして辿り着いたのはあのでこぼこ道。

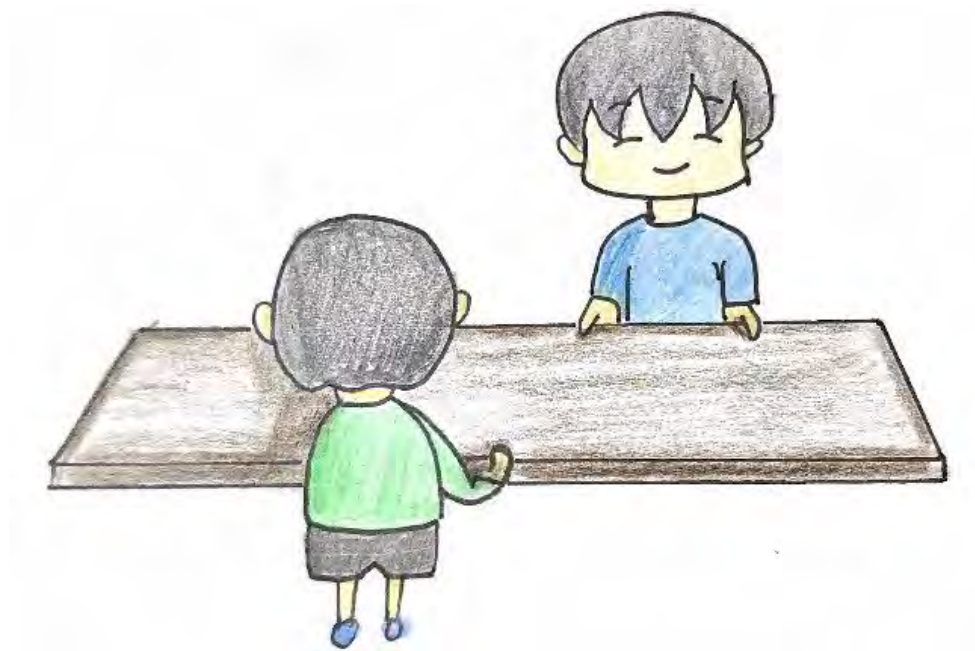
しかし、以前とは違い、そのでこぼこ道には、大きな木の板が敷かれていました。

「あら、いったい誰がこの道を…もしかして、ニックがしてくれたのかい？」



そうです。ニックは友達と協力してこの道になだらかな木の板を敷いたのです。

「こうすれば、車椅子を使うおばあちゃんも、ベビーカーを押すあの妊婦さんもきっと楽に道が通れると思ったんだ。」



「ニック本当にありがとう。とても助かるわ！」

"不自由を生み出しているのはおばあちゃんの手押し車でもベビーカーでもない、あのでこぼこな道だ。"

ニックは先生の言葉の意味を自分なりに見つけ出したのです。

数日後、ニックは先生にこう伝えました。

「ぼく、誰一人取り残さない世界を作るためには、みんなが幸せになれるように不自由を生み出しているの社会を変えていくことだと思う。」





先生は微笑みながら、こう言いました。

「ニック。あなたは誰1人取り残さないことは身近な人を大切にすることから始まることに気づいているわね。そして、その気持ちが身近な人から他の人まで広がることで、SDGsが目指している"誰一人取り残さない世界"は実現される。そのことにも気づくなんて、先生ビックリだわ。とても立派ね！」

「この世界にはまだまだ、何かに困っていたり、悩んでいたりする人がいる。
そんな人たちのためにも、あなたがおばあさんのために凸凹の道を通りやすくしたように、
幸せに暮らせる環境を、みんなで作っていきましょうね。」



誰一人取り残さない、幸せに暮らせる世界を作るために、
思いやりの気持ちをもっと広げていくことをニックは決意しました。



おしまい

読んでいただき、ありがとうございました！

今後の活動について

- デジタル絵本化
- 子供向けのオンライン読み聞かせ開催
- 製本化
- 小学校や児童館への寄贈
- 出版

Thank you for watching !